

2013年度・平成25年度 事業報告書

2013年・平成25年4月1日 ～ 2014年・平成26年3月31日

2014年4月1日

学校法人山口学園


くずは青葉幼稚園

目次 2012年度・平成24年度 ぐずは青葉幼稚園 事業報告		本書は 18ページを以て成す
第1節 法人・幼稚園概要		3 page
第2節 2013年度・平成25年度 幼稚園運営指針		3 page
① 経営理念		4 page
② 本学園の使命		4 page
③ 教育理念		4 page
2013年度・平成25年度 教育指針・保育指針		4 page
2013年度・平成25年度 異年齢児による教育活動の報告		4 page
第3節 自己評価の取り組み		5 page
第4節 子育て支援事業		5 page
① 預かり保育		5 page
② 園庭開放(未就園児子育て支援)		6 page
③ 課外教室		6 page
第5節 教育環境設備の充実		6 page
第6節 納付金の減免		7 page
第7節 経営改善計画の策定		8 page
第8節 大阪府私立幼稚園経常費補助金		9 page
第9節 枚方市/平成25年度幼稚園幼児教育充実事業		9 page
第10節 保護者交付各補助金		9 Page
第11節 組織運営体制		9 page
① 学校法人山口学園運営体制[理事長・理事会の役割と責任]		9 page
② ぐずは青葉幼稚園運営体制		10 page
第12節 教員の資質向上		10 page
① 園内における保育研究		10 page
② 園外における研修 ③ その他の園内外における研修等		10 page
第13節 園児健康管理		10 page
第14節 職員健康管理		11 page
第15節 幼稚園行事(事業)の概要実施報告		11 page
第16節 学事報告		11 page
平成25年度 学籍詳細		11 page
平成26年度 就学小学校一覧		11 page
第17節 財務報告[重要事項報告]		12 page
第18節 その他の報告		12 page
① 未就園児教室の開講		12 page
② 未就園児(在園児)園庭開放の実施		12 page
③ 小学校との連携・交流		12 page
④ ホームページの更新(情報公開)		12 page
⑤ 高齢者との交流会		13 page
⑥ 通園バス運行		13 page
⑦ 銀行借入金に関して		13 page
⑧ 園則変更について		13 page
⑨ 給食実施状況・食育の取り組み状況		13 page
⑩ 科学あそびの導入について		14 page
⑪ 不用教材、粗大塵等の処分		14 page
⑫ 中学生の「職場体験学習」受け入れ		14 page
⑬ 重要文化財防災訓練参加		14 page
⑭ 次年度・学籍について		14 page
第19節 沿革		15 page
学籍の推移 [資料]		17 page

学校法人山口学園 くずは青葉幼稚園

2013年度／平成25年度 事業報告書

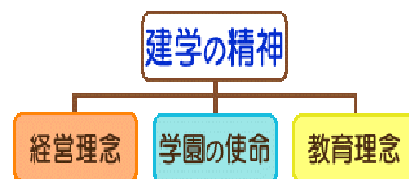
第1節. 法人・幼稚園概要

設 置 者	学校法人山口学園
学 校 名	くずは青葉幼稚園
所 在 地	枚方市北楠葉町38番1号
学 校 長 氏 名	園長 山口尚志
法 人 代 表 者	理事長 山口亨 副理事長 山口尚志（法人の代表権を有する副理事長）
理 事 会	理事7名、評議員14名（年度途中欠員1名）、監事2名 定例理事会 2回開催（決算5月・予算3月、承認）
定員・実員学籍	定員400名 実員192名（平成25年5月1日時点） [3歳児79名、4歳児47名、5歳児66名]
職 員 構 成	平成25年度 園長1名、主任教諭1名、教諭12名、園務員1名、嘱託/バス運転手2名。以上正職員 合計17名 [体育講師1名]
建 学 の 精 神	「たくましく人間性豊かな子どもをめざす」
そ の 他 I	以下の項目は、ホームページ [http://www.k-aoba.ed.jp/] にて詳細公開 (本事業報告書にての記載を略) 建学の精神・教育方針/指導方針・学園環境・保育概要・沿革（本書第19節・P15に掲載） 2013年度教育指針（本書第2節③・P3～5に掲載）学費納付金・預かり保育・情報公開 [幼稚園概要（事業報告・財務状況等）・課外教室・食育取組及び給食内容・感動の声（保護者意見集）・推薦の言葉・保護者交付各補助金（2013年度交付実績は、本書・第10節・P9に掲載）]
そ の 他 II	法人及び幼稚園連絡先 電話 072-857-8221 FAX 072-856-5944 E-メール info@k-aoba.ed.jp 園章 

第2節. 2013年度・平成25年度 幼稚園運営指針

開園36年の実績を基盤に本園幼児教育の推進と充実を図り、「建学の精神」をより太くするため、年度初めに「経営理念」「学園の使命」「教育理念」の三つの柱を再認識の上、運営指針を定めた。

これは、継続してその指針の目標達成に努力すべき事項であり、不変の指針とも言うべき事項である。従って、2013年度・平成25年度においてもこの指針に基づき幼稚園運営を行なった。また、本園全体で実践している「異年齢児による教育活動」の充実を図るため、年度指針を設定した。更に学年ごとに詳細の教育目標を設定、これを全教員共通理解を図り、幼稚園全体の教育内容の充実のため意志統一を行った。[2013年度・本園の教育指針並びに学年の教育目標、異年齢児による教育活動の指針については「学校評価」(2014年4月公開)の前段に掲載]



① 経営理念

多様化、複雑化する社会構造と教育構造の真意を捉え、次代を担う子どもの生育を真摯に考え変化を先取りする。また保護者ニーズの真意を捉え保護者との連携を構築し幼稚園教育の満足度を高めることをねらいとした。教職員は、業務並びに事業全てに対して「一生懸命な姿勢」を貫き、結果のみを重視することなく過程をも重視した教育を実践することを理念とし設定した。

教育水準の向上を図り、園の目的を実現するため教育活動及び学校運営の状況について自ら点検及び評価を学期毎に行い、その結果を新年度初に公表した。（2009年～2013年それぞれ4月公開、2014年4月公開に2013年度版を公開）また、園の教育活動その他の学校運営の状況について保護者等に対して積極的に情報を提供。さらに危機管理体制を構築し、安全な幼児教育環境を設定した。

公開する内容

- (1) くずは青葉幼稚園・学校評価
- (2) 財務状況（消費収支計算書・資金収支計算書・貸借対照表・財産目録）
- (3) 本園の教育活動について広く公開し、幼児教育機関としての役割を果たす。（HP等の活用）

② 本学園の使命

保護者に文書並びにホームページを活用し、子育て情報、教育情報等を積極的に発信し、家庭・保護者教育力を高めることが成されるよう努力した。また、年間を通じて「園庭開放」を実施し、未就園児保護者も含め家庭との連携を深め子育て支援を充実させた。更に大阪府が推進する「スマイルチャイルド事業」として、幼稚園開園11時間（預かり保育の19時終了）を昨年度に引き続き実践した。

③ 教育理念

2013年度教育指針・保育指針を全教員で年度初めに確認し共通理解のもと実践に取りくんだ。概要は下記の通り。従来の「幼児体育・健康領域」の重点指導はもとより、領域「人間関係」の重点的指導並びに環境構成に留意し「異年齢児」による教育活動を昨年度以上に推進した。その活動日・教育日数を年間において増加しこれに充てた。

※ 2013年度・本園の教育指針並びに学年の教育目標、異年齢児による教育活動の指針については、2014年4月公開の「自己評価・学校評価」の前段に掲載。

2013年度・平成25年度 教育指針・保育指針

本園は、幼児の「心身の成長」を促し、子ども達相互の「ふれあい」を大切にしたい教育環境を整えることが何よりも大切と考えている。そして、幼児がいろいろな生活体験を積み重ねることができるよう指導と援助を行い、「明るく伸び伸びとした幼児の育成」を目指すことが教育目標である。幼稚園集団生活の中で、幼児期の「躰」を充分に行い情緒の安定を図り、そして将来の社会の担い手となるよう、自主性と協調性をもった豊かな「個性の創造」を育むことに努力研鑽に努めている。「幼児の心身の成長発達を助長し明るく伸び伸びとした集団生活を行う」「幼児期の幅広い諸経験を通して自主性を培い、そして体得して表現し、さらに集中してやり遂げる」という幼児教育を目指すものである。

※ 2013年度・本園の教育指針並びに学年の教育目標、異年齢児による教育活動の指針については、2014年4月公開の「自己評価・学校評価」の前段に掲載。

2013年度・平成25年度 異年齢児による教育活動の報告

各学年並びに園全体の教育目標

- ◎年長 自分で考えたり、友だちと協力しながら、見通しをもって生活や活動を展開し、意欲的に園生活を送る
- ◎年中 活動や遊びの中で友だちと思いを伝え合い、受け入れながら自分の力を発揮し、意欲的に取り組む。
- ◎年少 基本的な生活習慣を身につけ、安定して園生活を過ごすとともに、自分の思いを様々な方法で表現し、友だちと関わる楽しさを味わう。
- ◎全体 異年齢活動の教育目標
 1. 異年齢の友達に親しみをもち関わりを深め、友だちとの生活の中で自分らしさを発揮する。
 2. いろいろなクラス、学年の友達や保育者との関わりを楽しむ。
 3. すずんで関わりをもち、思いやりの気持ちを育む。

異年齢活動取り組みの報告

異年齢保育は、人と関わる力を育み、経験の中で人への優しさやいたわる心を育てるということを確信した。園児は、子ども同士の関わりとたくさんの経験の中で「やってあげたいと思う心」「やさしくされて嬉しいと思う心」は「人と関わる力」となった。そして新しい人間関係を築く第一歩となった。

年間を通し、「教育目標・ねらい」を設定し取り組んだ。これらの幼稚園における「異年齢活動」がきっかけとなり、日常のあそびや登・降園での子ども達同士の関わり、預かり保育の活動時における子ども達同士の関わり方が、さりげなく自然になった。異年齢児の交流は、決して一方通行ではなく「やってあげるだけ」「やってもらうだけ」では成り立たず、「やってもらったことへの感謝の気持ち」「やってあげたことが、伝わった喜び」等、お互いが感じあうことが重要であると教員一同再認識した。友だちの思いに気づく、友だちのことを思いやる、それが「かかわる力」であり、友だちやまわりの人に助けられながら、特に年少児達は、少しずつ身につけはじめた。この取り組み、教育活動により本園の「建学の精神」がより太いものとなり、園児に意義ある教育活動並びに幼児の発達の援助が成されたものと認識している

第3節. 自己評価・学校評価の取り組み (第2節-①関連)

継続して評価項目に沿って「自己点検・自己評価」を学期毎に行い、教員自らが主観的に指導や子どもとの関わりを省みた。そして、総合評価として園長・主任による評価を加え、それを園内における客観的評価と位置付けた。また、学校関係者評価として本園父母会役員の方に意見を求めた。また、本法人理事会に報告の前に理事1名の方、また地域公人として枚方市議会議員の方1名にその内容を説明し、意見を求めた。これにより、学校評価委員は16名の構成とした。その結果、「特に指摘すべき事項・内容は無い」旨の評価が成された。

これを2008年度以降と同様に新年度・2014年4月に「2013年度 学校評価・自己評価」として、ホームページにて公開を行う予定。

第4節. 子育て支援事業

① 預かり保育

従来17時30分まで園児を預かり、「預かり保育」を実施しているところであるが、2012年度より19時迄、預かり時間を延長し子育て支援事業の充実を図った。また、7月及び8月夏期休業中(夏休み)に20日間の預かり保育実施。冬休みに2日間、春休みにおいては、進級児を対象に2日間の預かり保育を実施した。尚、子育て支援事業の趣旨のみに非ず、従来の教育活動同様に「異年齢児による教育活動」と位置付け、子ども同士の関わりを深めるための指導や援助を実践し、子ども自らが育つ「子育て」の環境を調えた。

通常時・預かり保育/日数/利用人数等実績

通常預かり保育 4月～3月	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
預かり保育日数	年間168日	年間171日	年間165日	年間182日	年間172日
預かり保育延べ利用園児数	3019名	2535名	2846名	2637名	3352名
一日平均園児数	17.9名	14.8名	17.2名	14.4名	19.4名

保育日数の年度別差異は、暦の関係による

長期休業中・預かり保育/日数/利用人数等実績

夏期 預かり保育 7～8月	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度
預かり保育日数	14日	16日	19日	18日	20日
預かり保育延べ利用園児数	650名	746名	848名	898名	862名
一日平均園児数	46.4名	46.6名	44.6名	49.8名	43.1名

春期 預かり保育 3月	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度
預かり保育日数	実施せず			4日	2日
預かり保育延べ利用園児数	実施せず			85名	65名
一日平均園児数	実施せず			21.25名	32.5名

冬期 預かり保育 12月	09年度	10年度	11年度	12年度	2013年度
預かり保育日数	2日	2日	2日	2日	2日
預かり保育延べ利用園児数	83名	98名	119名	57名	40名
一日平均園児数	41.5名	49.0名	59.5名	28.5名	20.0名

② 園庭開放（未就園児子育て支援）

園庭開放を年間を通じて実施した。（月1回～2回）未就園児並びに在園児も含め、保護者（家庭）との連携を深めた。尚、参加者は一回のみの参加者、全回参加者も含め**183名**の参加。昨年度の参加数164名と対比すると**111.5%の対比**となった。2010～2011年度は来園者が現象となったが、2012年度は増加、さらに本年度はより増加となった。

今後も継続して、園庭開放を実施し、未就園児と保育者の関わりをより広く実践し、幼稚園に対する保護者意識を高めるよう環境を構成し、未就園児保護者の子育て支援事業としていきたい。併せて、就園前の保護者の幼稚園選択の一助となるよう努めたいものである。

然しながら、2015年度・平成27年度4月よりの「子ども・子育て支援新制度」いわゆる「子ども園」の開設により従来の未就園児「園庭開放」の位置づけの確立が難しいことを予測。「就園前の保護者の幼稚園選択の一助」という趣旨からはやや外れ、「子育て支援事業」となるかどうか最大の課題である。

	2006/H18 07/H19就園	2007/H19 08/H20就園	2008/H20 09/H21就園	2009/H21 10/H22就園	2010/H22 11/H23就園	2011/H23 12/H24就園	2012/H24 13/H25就園	2013/H25 14/H26就園
園庭開放参加者	121名	97名	約80名	144名	138名	84名	164名	183名
9月入園説明会参加者	70名	62名	56名	86名	96名	64名	77名	91名

③ 課外教室

継続して、課外教室を展開し「子育て支援事業」として位置づけた。その教室内容は、以下の通り。

- I. アートクラブ [絵画造形活動・教室名=アートクラブ/月曜日開講]
- II. スポーツクラブ [体育活動クラブ・教室名=スポーツクラブ/火曜日開講]
- III. 英語教室 [英語指導教室・教室名=ECC/水曜日開講]
- IV. 幼児知育教室 [知育・教室名=プレイルーム/木曜日開講]
- V. 幼児知育教室 [文字、数の指導・教室名=エンピツらんど/金曜日開講]
- VI. 放課後スイミング[スイミングスクール(2013年5月開講)]

多くの在園児が課外教室を受講し、広く教育機関としての位置づけが成された。尚、スポーツクラブ及びプレイルームにおいては、卒園後（小学生）も課外教室を受講し、地域の教育センター的な要件を備えるに至った。

尚、上記以外に5月度よりスタートした「放課後スイミング」は、当初木曜日コースの開設を予定していたが、入会希望者が多くなり、金曜日コースも新設となった。園児のスイミングスクールへの通室を促し、幼児体力向上への導線となるべく、牧野スイミングスクールと提携したが、その教育効果は大きく、併せて保護者の通スクール等の支援となり好評な課外スクールとなった。3月末時点で放課後スイミング会員の園児数は、木曜日コース25名、金曜日コース18名、合計43となった。

第5節. 教育環境・設備の充実

2011年度・平成23年度 ～ 2012年度・平成24年度 [前年度までの経緯]

2011年3月20日～3月末に園庭西の駐車場について第一次拡張工事を行ない、来園者駐車場の増設を行った。また、同年1月において第二次駐車場拡張工事を実施。併せて、北園舎2階年長保育室壁面よりの雨漏りにより、壁面全面防水改修工事を行った。固定遊具について塗装の消耗により、全面的に塗装改修を行い、遊具の安全化を図った。保護者より洋式トイレの設置について要望があり、今後の保護者対応等を考慮し、南園舎1階の職員トイレに洋式トイレを設置した。2012年度より、預かり保育について午後7時を終業とするため、降園時の照明が必要とされる由を以て灯光機2機の設置を行った。この灯光機は、今後において「お泊り保育」「青葉まつり(夏まつり)」においても活用の趣旨を含めての設置とした。当該改修工事は、昨年度末に一部の工事の精算を含め、2011年度の決算において処理することとした。また、2011年度父母会運営により、幼稚園にテント1張の現物寄贈を受けた。さらに、図書寄贈(15万円相当)の現物寄付を受けた。テントについては、行事等において広く活用し、図書については園児が常に読むことができるよう環境を調べ、教育環境の充実の一助となった。

2012年度・平成24年度においては、①教育環境の整備事業として夏期休業中の2012年8月に「砂場の殺菌」を行った。また、園児トイレの全部を殺菌並びに清掃工事を9月に実施した。

これにより、長年にわたり清潔・殺菌清掃していたが、水垢並びに尿素等の除去により、清潔感が向上し快適なトイレ環境を整えた。②遊戯室屋根部分の防錆塗装。屋根部分についての防錆については、過去に実施したが、その後の錆の広がりやひどく、全体に錆色となり目視できる状況となった。このため、塗装業者に全部の「防錆並びに塗装」を完了した。③年少保育室前のコンクリートフロアの安全対策。年少保育室前のコンクリートフロア部分、園庭と廊下部分の建築上のコンクリートフロア部分に従来は、雨天時のみに滑り止めマットを敷設し安全対策を執っていた。建築構造上の課題があり、予め専門業者と安全対策について協議していたが「滑り止め塗装」等を実施してきた。長期間においてそのすべり止め効果も薄れるため、今般は「人工芝」の敷設とした。平米数の関係より、滑り止め塗装の費用と相対性があったが、園児転倒の際の安全対策を第一とし、敷設と判断した。④保育室・父母会会議室・多目的室サロン室・園児休息室・職員更衣室・簡易倉庫・プレハブ倉庫・園長室の改修工事。並びに職員ミーティング室の新設工事。保育室の改修工事については、平成25年度1クラス増となるため、本来保育室であったが、長年 父母会会議室としていた部屋を改修し新年度に備えた。また、従来のサロン室を多目的に活用できるよう（父母会役員会議室、保護者懇話室、小会議室等に活用）改修した。続いて、従来の職員更衣室は教材やコピー用紙の保管等に使用し本来の更衣室の体を成さなかった。この際、南園舎の男子更衣室兼倉庫、並びに閉鎖中であったバスルームを改装改修し、更衣室と簡易倉庫とした。園児休息室は、発熱等により保育中に休息・安静を要する園児には従来、職員室において園児を視診しながらベッドにて安静に休養としていたが、職員室内の環境は相応しくなく、職員室北側の一面を拡張し「休息室」となるよう新設した。さらに、南園舎の従来の倉庫並びにフル南に位置するプレハブ倉庫内を整理整頓した。プレハブ倉庫については、雨漏り等のため防水塗装及び内装の改修を行った。尚、倉庫内の不用品〔過去の教材やおもちゃ、教務資料等〕一切を処分した。職員ミーティング室は、今後 きめ細やかな教務会議、ミーティングが必要と考え「教務体制の確立」と位置付け改修新設した。このミーティング室に簡易シャワールームを新設し、園児の排洩失敗時の対処等 また職員の「どろんこ遊び」の際の身体の洗浄等に活用する趣旨で設置した。⑤電子ピアノ4台、大型絵本の購入、ままごとセット、図書一式の購入。父母会事業活動として2013年度末に記載の現物寄付を受けた。父母会活動の趣旨に感謝し本園の教育活動に大きな効果が期待できるものと信じているところである。

2013年度・平成25年度

前述の「経緯」に記載の通り、本園の設備環境は園児にとって有効なものとなってきた。さらに、本年度においては、①教育環境の整備事業として継続して2013年8月に「砂場の殺菌」を行った。②今後の保育に対応するため、本来は保育室でありながら、「教材室」として活用していた保育室を年度内に園児の活動の部屋として運用するため、改修工事を実施した。この教材室を移転する必要性が生じたため、③プレハブ倉庫の新設。④階段室の拡張工事を年末に行った。また、⑤遊戯室舞台袖の整理用棚の新設を行い、教材等の管理設備を整えた。⑥粗大ごみ収納庫の新設を行った。これらは、消費税改定を目前にして、支出の抑制を成すことも視野にいれ、改修の時期を判断した。そして、何より園児の活動の場を拡張し有効に施設を活用することを趣旨とした。併せて、これらの一連の改修にともない保育室廊下絨毯の張替等、細々な施設に改修を施した。

大型冷蔵庫を給食配膳室に常備しているが年式が古く、冷蔵庫機能の低下はないが配管の腐食が、点検により発見された。年式の古さゆえ、修繕の部品がなく、また電気使用料金の高額故、この際 新機種との入れ替えを行った。夏期における園児の「弁当保管」をはじめ、本園にとっては重要な設備の位置づけが所以である。

さらに年度末には 父母会よりその貴重な浄財を以て⑦「園児机4、並びに椅子60」の寄贈を受けた。これにより痛んだ園児机、椅子の処分にいたった。貴重な寄贈に父母会会員(保護者)に感謝の旨、年度末の父母会総会において意向を表明した。尚、本園より椅子の追加購入として70脚の購入を行った。

施設設備の充実項目とはならないが、6月に通園バスの故障が発生し、修繕に期間を要することとなったため、この際マイクロバスレンタカーを手配し、修繕を行った。この対応により安全を確保できたものとなった。

第6節. 納付金の減免 (入園一時金施設協力金の兄弟姉妹関係児減免措置)

保護者の経済的負担を最小限に抑え、兄弟姉妹関係児の保育料減免措置、併せて空調費の減免措置も実施している。この趣旨に則り、さらに平成21年度入園者より入園一時金の内、施設協力費2万円を在園並びに卒園の兄弟姉妹関係の入園者〔納付義務者＝保護者〕に対して減免措置を執った。継続して平成25年度入園者について同様の減免措置を適用した。〔園則変更済〕

第7節. 経営改善計画の策定

[平成20年度から前年度までの経緯]

標題の「経営改善計画」を平成20年度において向こう5年間の計画を策定した。当初予定では、本年度が最終年度となり、本来その評価を記すべきであるが、その目的は既に平成22年度に達成となった。尚、当初「経営改善計画の趣旨」を毎年度において意識し、より経営の改善並びに安定を図った。その中核は以下の通りである。

- ① 従前より経費節減に努めた。その主な要件は、経費節減並びに減価償却額の減少となり、管理経費支出を抑制、さらに修繕費支出を抑えたが、平成20年度以降継続して、保育室改修工事を実施し、前ページ記載の通り、教育環境の整備を図る趣旨として、毎年度大幅に改修工事等の支出が拡大した。経営改善計画の根幹は上記の経費節減と学籍園児数の増大であり、今後の園児募集活動内容の充実を図る旨の計画を継続立案した
- ② 大阪府私学助成カットが、平成20年度に打ち出され、経常費補助金の削減となったが、配分基準により精査すると、園児減少による園要素の単価減少（140名以下の配分単価/平成20年度本園実員は139名の構成要件）が大きく影響したものと判断でき、園児数拡大が課題と認識した。
- ③ 平成20年度策定の在籍園児数の拡大について、毎年5名の増加を設定した。在籍園児数においては、22年度内に向こう5年目（H25年度）の標値を達成した。これを受け、園児要素並びに教員要素において経常費補助金の増額が得られた。
- ④ 上記①、②を受け、2010年度・平成22年度において継続して「経営改善計画」の修正を行いこれを継続し、幼稚園運営・経営の安定化を目指した。2011年度・平成23年度は、この修正経営改善計画を基本に事業運営に取り組んでた。但し、経常費補助金内の「経営改善計画策定による補助金」については、その配分要件である〔前年度決算による「（帰属収入－消費支出）÷帰属収入」が0%以下であること〕が満たされない決算結果となり、2010年度・平成22年度は、40万円の補助金交付は交付されない状況となった。また、2011年度・平成23年度、2012年度・平成24年度さらに本年度においても同様となった。
- ⑤ 上記④を受け、併せて2012年度・平成24年度より事業運営を行う「大阪府スマイルチャイルド事業」の趣旨により、幼稚園開園11時間、預かり保育の時間延長（早朝午前8時登園・午後7時終業）を実施することより、2012年度内において新たな「経営改善計画」を策定し、幼稚園運営・経営の安定化を目指した。
- ⑥ 前記の経緯、また今後の幼稚園運営について第5節「記載の教育環境・設備の整備」に記載の通り、教員の資質向上と併せて教育環境の充実を図る趣旨を以て改修工事を実施した。これは、これからの幼児教育機関として先駆けて実施を優先させた。経営改善計画は、この大規模改修工事を踏まえて2012年10月に修正を行った。

[本年度の対応]

今後当初の「経営改善計画」の趣旨に則り、当該年度の修正を加えながら計画を推進するのが本意であるが平成20年度より、大阪府私学助成削減の方針が大阪府により行政改革として実践され平成22年度以降においても2.5%カットが表明されたが、本園の場合は「借入金返済」が大きな要件を占め経常費補助金削減は大きな衝撃となった。経常費補助金交付を本来とせず、本園としての教育運営を実践すべきが責務と認識するが、ここ数年の園児減少を捉えたと経常費補助金の交付趣旨並びに増額が有効となるよう経営努力すべきと感じる。併せて私立幼稚園本来の教育内容、本園「建学の精神のより充実」に向けての努力研鑽に励むべきと痛感するものである。

尚、年度末に「大阪府における私学助成2.5%カット」が解除される旨の速報を情報入手となった。これにより今後の幼稚園運営において好ましい財務状況となること予測される。

但し、平成27年よりの「子ども園」移行に際し、学校法人にとって未知の分野があり、加えて国レベルでの未決定分野もあり、今後の財務状況については予測不能な状況となっていることも事実である。（2014.03時点）

[消費税対応について]

平成26年4月より消費税改定にともない、本園の収益事業としての収入の費目、「給食費」「教材費」について課税対象より除外するため、両費目を「保育料」に含むこととし、大阪府私学課に園則の変更について届け出た。施行は、平成26年度よりとし、これにより本園の納付する消費税について節税となることを趣旨とした。保護者納付の給食費並びに教材費の値上げにより消費税対応も可能であるが、保護者負担を最小限に抑えることを趣旨とし、納付金体系の改定にとどめ、納付総額の変更はないものとした。

第8節. 大阪府私立幼稚園経常費補助金

平成25年度大阪府私立幼稚園経常費補助金の配分基準により、46,078,000円の補助金交付となった。これは、平成20年度園児数（近年の園児数最少年度）より対比すると14,885千円の増額となる。

経常費補助金 年度別交付実績（単位千円／下段は学籍数・当該年度5月1日時点）

平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
38,426	38,830	35,223	33,627	34,150	31,193	36,992	40,391	42,193	41,706	46,078
213名	210名	191名	160名	154名	139名	151名	174名	191名	180名	192名

第9節. 枚方市／平成25年度 私立幼稚園幼児教育充実事業補助金

枚方市より、平成22年度から「私立幼稚園・幼児教育助成モデル事業補助金」として補助金交付が成されていたが昨年度より標題の「私立幼稚園幼児教育充実事業・補助金」と名称を変更し、交付されることとなった。その趣旨は、「平成21年度に改定された幼稚園教育要領において、幼児期における教育の重要性が位置づけられ、教育要領改定の趣旨を踏まえた小学校への円滑な接続、地域や家庭との連携等、幼稚園が行う特色ある幼児教育の取り組みに対して、平成21年度から平成23年度までの三年間助成を行うことで幼稚園教育の充実を図る」としていた趣旨を継続して取り組むため交付された。

標題の事業について昨年（平成24年度）に引続き、本園もこれを申請し、補助が成された。（上限30万円）その事業申請の内容は、①地域の自然、人材、行事、公共施設を活用し、幼児に多様な体験をする機会を提供する事業。②幼児教育の充実に資する事業。（園庭開放等）以上の事業の申請により、枚方市より標題補助金30万円の交付決定となった。（2014年3月交付）

特記事項 枚方市の当該事業審議会より、平成25年度において「幼児教育を充実する事業（園内研修や講演会等）をもっと実施することが望ましい」と指針が示された。2/1補助・上限30万円の範囲の中で当該指針を打ち出される審議会の趣旨が不明であると感じた次第である。

第10節. 保護者交付各補助金

（枚方市私立幼稚園保育助成金補助金は、枚方市教育委員会より直接保護者に交付）

私立幼稚園就園奨励費補助金をはじめとする2013年度・平成25年度保護者交付金は、以下の金員が京都府並びに各市町村・行政機関より補助金交付となり、本園より保護者に配分した。これにより、私立幼稚園就園児 取り分け本園の保護者負担を軽減し、幼児教育の一層の充実させる趣旨の通り達成された。

補助金名称	交付学年	2011年度	H23年度	2012年度	H24年度	2012年度	H24年度
大阪府私立幼稚園保育料軽減補助金	3歳児交付	2011年度より廃止	—	—	—	—	—
枚方市私立幼稚園就園奨励費補助金	3～5歳児交付	9,733,100	105名	9,049,300	118名	10,525,600	113名
京都府私立幼稚園保育料軽減補助金	3～5歳児交付	540,000	30名	270,000	15名	144,000	8名
八幡市私立幼稚園就園奨励費補助金	3～5歳児交付	1,788,400	18名	735,600	8名	1,460,400	8名
京都市私立幼稚園就園奨励費補助金	3～5歳児交付	140,400	3名	211,800	3名	238,400	3名
京都市私立幼稚園就園教材補助金	3～5歳児交付	494,000	9名	164,000	7名	95,600	4名
京田辺市私立幼稚園就園奨励費補助金	3～5歳児交付	111,000	1名	114,000	1名	0	0名
枚方市私立幼稚園保育助成金補助金	3～5歳児交付	5,314,400	160名	5,437,200	159名	5,855,800	177名

第11節. 組織運営体制

① 学校法人山口学園運営体制 [理事長・理事会の役割と責任]

従前より理事長・山口亨は、体調不調が続き、幼稚園に赴いての現認することが困難な状況となった。そのため、法人業務及び幼稚園業務運営については、代表権のある副理事長・山口尚志（園長）がこれを執行し、何ら差し障りのない処理を行い、業務を遂行している状況である。これは、副理事長（園長）が理事長に詳細にわたり報告・説明を成し、法人運営について円滑化されている点、併せて、私立学校法改正の際に、本法人の代表権のある副理事長としたことより、何ら問題が生じていない現状である。尚、法人評議員の方が2012年5月に逝去され、選任が必要とされるが現在（2014.03.31）、欠員の状況となっている。

尚、前述の状況を鑑み、理事長山口亨より平成26年2月に理事長辞任の意向を提示された。これを受け、年度末3月の定例理事会において議案として審議した。この結果、一つは、理事長辞任の件について理事会はこれを承認。続いて、後任の理事長に現副理事長・園長の山口尚志を推薦し、承認された。平成26年3月31日付を以て、理事長職を山口亨は退任し、同年4月1日付を以て、山口尚志が理事長に就任することとした。また、山口亨は2014年4月以降においては理事として、代表権の有る副理事長職は、山口尚志が理事長に就任したことにより空席とした。

② 幼稚園運営体制

従前通り、「園務分掌規程」に基づき、業務を分掌し、合理的で機能的な幼稚園運営を図った。また「行事担当分掌」についても職員の責任と自覚のもと遂行され、反省課題はあるものの円滑な園運営がなされた。

第12節. 教員の資質向上

① 園内における保育研究

平成25年度、園内での「研究保育」を実施した。当該保育内容について全教諭より、指導助言等を行い総合評価を行った。全教諭は、研究保育及び評価反省会を日々の保育に活かした。

1	2013年 5月 7日	楽器あそび	鉄琴木琴	年長まつ組	満村教諭
2	2013年 5月 7日	製作活動	環境づくり	年少ふじ組	西 教諭
3	2013年 5月14日	運動あそび		年少たんぼぼ組	村瀬教諭
4	2013年 5月14日	運動あそび		年中きく組	新明教諭
5	2013年 5月15日	運動あそび	ボール遊び	年長ゆり組	長倉教諭

② 園外における研修

平成25年度、園外での「研修会」に下記の通り、参加した。この他に枚方市私立幼稚園園長会にて園長研修。

1	2013年 4月27日	幼児期の発達障がいの子どもにみられる問題と理解と対応	大阪医科大学LDセンター／主任参加
2	2013年 8月20日	幼児虐待問題研究会	枚方家庭児童相談所／園長・主任参加
3	2014年 1月27日	子ども園 研修会	大阪府私立幼稚園連盟・私学課／園長参加
4	2014年 2月26日	子ども園 研修会	大阪府私立幼稚園連盟京阪支部／園長参加

第13節. 園児健康管理

平成25年度中に下記の園児健康管理を行った。

- ① 毎月（8月度は除く）身長、体重の測定 ② 5月、9月、12月、3月 胸囲、座高の測定。
- ③ 学校保健法により右記の健康診断を実施。検尿検査5月、寄生虫検査5月、歯科検診6月、内科検診6月実施
4歳児・5歳児については視力検査を実施。
- ④ 園児健康管理上において特記すべき事項

インフルエンザの罹患状況

2014年1月以降の園児インフルエンザ罹患による欠席状況は、86名となった。尚、学級単位の臨時休園措置（学級閉鎖）の対処は、年中組1学級においてこれを処置した。3月3日を以て、インフルエンザ罹患は終息した。今後は、学級単位の臨時休園措置について、園児欠席状況が学級の30%を基準として判断していたが、園児の健康状況を診て園医と協議の上、予防の観点からその基準を見直す必要性を感じた。

第14節. 職員の健康管理

職員健康診断、平成25年6月実施 園医・石塚健二

第15節. 幼稚園行事（事業）の概要 報告

04/03	第37回 入園式	09/01	2学期始業式	01/09	3学期始業式
04/11	1学期始業式	09/21	運動会	02/03	節分
05/01	子どもの日の集い	09/30	敬老の集い	02/15	生活発表会
05/09	遠足（枚方パーク）	10/11	遠足（琵琶湖博物館）	02/24	小学校交流会
06/05	歯科検診	10/17	いもほり	03/03	雛祭り
06/06	内科検診	11/09	作品展	03/10	お別れ会
06/16	日曜参観	11/21	移動動物園	03/14	第37回 卒園式
07/05	お泊まり保育	12/09	楽団公演	03/18	平成25年度終了式
07/19	1学期終了式	12/12	音楽会		
07/27	青葉まつり（夏祭）	12/20	2学期終了式		

年長児、年間を通じて「枚方市立くずは北サービスセンター」訪問11回

まつ	6/20 7/11 10/28 11/25 2/28	7/11 2/28は3クラス合同訪問
たけ	5/20 7/11 10/08 12/03 2/28	各クラス年間5回の訪問
ゆり	5/24 7/11 10/25 11/19 2/28	

第16節. 学籍報告・学事報告

平成25年度 学籍 2013年5月1日現在 3歳児79名 4歳児47名 5歳児66名 合計192名

年少学年	学籍	男児	女児
すみれ	15	9	6
たんぼぼ	15	9	6
ばら	16	9	7
小計	46	27	19
年中学年	学籍	男児	女児
きく	22	11	11
さくら	23	11	12
小計	68	34	34
年長学年	学籍	男児	女児
まつ	22	11	11
たけ	22	12	10
ゆり	22	12	10
小計	66	35	31
全学年	学籍	男児	女児
合計	180	96	84

平成25年度 卒園児就学小学校（就学は平成26年度）

就学 小学校		まつ	たけ	ゆり	合計
枚方市立	樟葉北小学校	3	3	2	8
	樟葉	8	7	9	24
	樟葉西	6	3	1	10
	船橋	0	2	3	5
	樟葉南	3	1	3	7
	殿山第一	0	1	0	1
	平野	0	1	1	2
八幡市立	くすのき	1	1	0	2
	八幡	1	0	0	1
京都市立	明親	0	1	2	3
京田辺市立	桃園	0	1	0	1
学校法人	京都文教	0	1	0	1
広島市立	伴南	0	1	0	1
	合計	22	23	21	66

第17節. 財務状況報告[重要事項報告]

2013年度・平成25年度の財務状況については、法人監事2名及び監査法人・公認会計士より、適正に運営されていると認められた。計算書類〔消費収支計算書・資金収支計算書・貸借対照表・財産目録〕については、後に本書とは別に本園オフィシャルホームページにてこれを報告・公開する。尚、特記すべき項目は、施設設備改修にともなう支出が増額となった。

重要な事業報告 2014年2月、理事長・山口亨より個人の所有する土地を学校法人山口学園に寄付する旨の意向を示された。これは、開園以来 理事長個人の土地を無償で貸与し、幼稚園教育に供していたところである。同年3月の理事会において、理事長の意思を受け承認された。尚、今般の土地寄付により法人が所有する園地はすべて自己所有となった。また、山口亨が法人に寄付した土地は、7筆・2164.1㎡。法人が自己所有の園地3222.0㎡と合わせて5376.1㎡となった。法人の基本財産の増加となる。

第18節. その他の報告

① 未就園児教室の開講

未就園児教室キディクラブは、2011年4月18名の入会者、2012年は、28名の入会者、2013年は36名3クラスで開講した。業務提携（委託）を齋エルステップスに業務委託し、本園と補完関係を執りながら未就園児子育て支援事業を行った。また親子未就園児教室として、あおば教室は、2012年13名の入会者、2013年は、一年コース18名2クラスを以て開講。さらに10月より、同様の親子教室半年コースとして13名の入会者を以て開講した。あおば教室は、齋学研と業務提携（委託）し、本園入園予定児をその会員として子育て支援事業とした。

② 未就園児（在園児）園庭開放・未就園児親子体操教室の実施

子育て支援事業として「園庭開放」を実施した。2013年4月より、2014年3月までの期間、土曜日午前中の開催とし、年間継続して10日間実施。また、夏まつり（青葉まつり7月）、運動会（9月）、文化祭作品展（11月）に招待し、子育て支援を図った。加えて、未就園児親子体操教室を平日の月曜日に3回開催。毎回約25名程度の参加者となり子育て支援の一環として地域の子育て支援対応を充実させた。

③ 小学校との連携・交流

2014年2月24日、枚方市立樟葉北小学校のご理解とご協力のもと、2年生児童と交流会を実施した。本園年長児が就学への期待を高め、且つ異年齢児による交流を深め「人間関係・コミュニケーション」の育成に教育効果があった。

④ ホームページの更新と情報公開

以下の通り、ホームページ更新を行ない「情報公開」を行った。

経営理念（本報告書第2節第①項）並びに本学園の使命（第②項）に基づき「本園教育内容等の情報公開」「子育て支援情報」や「学校評価」「財務状況」等を公開した。さらに「園日誌」というタイトルにて日々の園児の生活の様子教育活動等を情報公開した。（園児画像等についての掲載については、年度初に保護者より全了了承を得、公開した）このことにより、広く幼稚園教育内容や本園の教育方針を十分に一般的に理解を得ることができたものと確信する

【2013年度「自己評価・学校評価」並びに「事業活動報告」を2014年4月に公開】

2014.03.14	「卒園に際して（2014卒園）」更新
2014.02.24	「入園説明会・園庭開放」更新
2013.01.29	「未就園児教室」更新
2013.10.25	「感動の声・入園志望の動機」更新
2013.10.03	「感動の声・運動会」更新
2013.09.01	「園児募集要項2014年度版」更新
2013.07.30	「トップページ・入園について」「学費・納付金」更新
2013.06.04	「幼稚園概要・情報公開」更新
2013.05.30	「ご入園までのスケジュール」追加
2013.05.24	「幼稚園概要・情報公開」更新
2013.05.21	「放課後スイミングの導入」「科学あそびの導入」更新
2013.04.01	「幼稚園概要・情報公開」更新「科学あそびの導入」「放課後スイミングの導入」「学費・納付金」追加

⑥ 高齢者との交流会 年長児・枚方市立くずは北サービスセンター訪問事業

2013年度においても年間11回、下記の学級別の日程で訪問した。高齢者と手遊びやゲーム等を楽しく行ない、関わりを深めた。園児は、「高齢者を敬う心」はもちろんのこと「人との関わり」の大切さを体得した。(12月、2月は3クラス合同で訪問)

まつ	6/20	7/11	10/28	11/25	2/28	7/11	2/28は3クラス合同訪問
たけ	5/20	7/11	10/08	12/03	2/28	各クラス年間5回の訪問	
ゆり	5/24	7/11	10/25	11/19	2/28		

⑥ 2013年度 通園バス運行

大型幼児専用バス(ライオン仕様・いぬ仕様)2台、小型幼児専用バス(普通車ライオン仕様)1台、合計3台の通園バスにより、各バス3方面(コース)合計9方面(コース)の路線を編成し運行した。然るに年度内において、1コース(1路線)の運行が、始業時刻の遅延、運行路線上の所用時間の問題より、一部のコースに編入等を行い、全8コースでの運行と修正した。当初より、大阪府大学私学課の指導による「通園バス園児乗車最大時間40分」を厳守しスムーズな運行の改編とし、園児に長時間乗車に対する負担のなきようにした。通園バス利用園児数は、147名となり全園児192名に対して、76.5%の割合となった。

⑦ 銀行借入金に関して (第7節に関連して)

銀行借入利息変遷の経緯 平成19年11月に借入先、京都銀行くずは支店に借入利率の縮小を依頼、協議の結果、

0.25%引下げの合意が成され3.125%の借入利率となり平成20年度予算作成に至った。また、平成21年度中において借入利率について京都銀行との協議交渉の結果、2.925%となった。さらに平成22年度5月に社会情勢等諸般事情を踏まえ再度借入利率の協議交渉の結果、2.425%と条件変更の契約を実施。その後、年度内10月、園児募集・入園願書受付を行ない、おおよその次年度学籍が見込める状況となり、再度借入利率の条件変更について申し入れ、協議の結果、同年12月末日返済時より、2.175%の借入利率の条件変更契約を締結した。2011年度において更なる借入利率の条件変更を申し入れ、協議の結果2.075%の条件変更が、平成23年12月に契約更新を行った。続いて2012年・平成24年11月30日、再度の借入利率の協議に入り、**1.975%の条件変更**に合意し、0.1%の利率改定が成された。平成19年より対比すると、1.15%の利率引き下げが実現した。これらは、本園にとって財務運営上、好ましい方向となった

また、2013年11月に借入金5件の内、1件が完済となり4件となった。元金の返済額についてはこれを従前と同額とした。

⑧ 園則変更について

第7節(P8)記載の「消費税改定の対応」として平成26年度よりの納付金について園則の変更届を大阪府・私学大学課に届け出た。

⑨ 2012年度 給食実施状況・食育の取り組み状況

年間、97回の給食を供給した。入園・進級当初(4月)は「集団で食する食事」としての安定に重点をおき、食べやすい環境を調べメニューは「パン給食と牛乳」を中心とし、5月より米飯給食の供給をはじめた。また、米飯給食は、アレルギー対応食を個別に供給し、「食の安全」を確保し、経常的に「無農薬米・無農薬野菜」を食材として採用した。また、特別食として ちらし寿司、きつねうどん、揚げそばの中華あんかけ、スパゲティ等、メニューの充実に努めた。園児にとって和やかでおいしい給食の位置づけが成された。また「食育」の一環として、栄養の三要素の話等、食育に関する指導を行ない、食に対する意識の向上に努めた。さらに、「餅つき(=お餅を食す)」「芋ほり(=収穫の喜びと同時に蒸かし芋を食す)」「雛祭り(=由来を知り食す)」等の行事を通して園児の食への関心を深める指導を実践した。

※ 2013年度・年間給食実施状況

月	パン給食	米飯給食	給食回数	月	パン給食	米飯給食	給食回数
4	3	0	3	11	4	6	10
5	4	6	10	12	2	5	7
6	4	7	11	1	3	6	9
7	2	4	6	2	4	7	11
8	0	0	0	3	2	5	7
9	3	8	11	計	35	62	97
10	4	8	12		36.1%	63.9%	100%

資料

※2009年度・年間給食実施状況

月	パン給食	米飯給食	給食回数	月	パン給食	米飯給食	給食回数
4	5	0	5	11	4	7	11
5	4	5	9	12	2	4	6
6	5	7	12	1	3	5	8
7	2	4	6	2	4	6	10
8	0	0	0	3	4	5	9
9	4	6	10	計	41	55	96
10	4	6	10		42.7%	57.3%	100%

※ 2010年度・年間給食実施状況

月	パン給食	米飯給食	給食回数	月	パン給食	米飯給食	給食回数
4	5	0	5	11	5	6	11
5	4	6	10	12	3	4	7
6	4	8	12	1	3	5	8
7	2	3	5	2	4	7	11
8	0	0	0	3	2	5	7
9	5	7	12	計	40	58	98
10	3	7	10		40.8%	59.2%	100%

※ 2011年度・年間給食実施状況

月	パン給食	米飯給食	給食回数	月	パン給食	米飯給食	給食回数
4	5	0	5	11	4	6	11
5	3	5	8	12	2	3	6
6	4	9	13	1	3	6	8
7	1	2	3	2	4	6	10
8	0	0	0	3	3	6	9
9	4	6	10	計	38	55	93
10	5	6	11		40.8%	59.2%	100%

※ 2012年度・年間給食実施状況

月	パン給食	米飯給食	給食回数	月	パン給食	米飯給食	給食回数
4	5	0	5	11	5	7	12
5	4	6	10	12	2	5	7
6	4	7	11	1	3	7	10
7	3	4	7	2	4	6	10
8	0	0	0	3	3	5	8
9	5	5	10	計	43	59	102
10	5	7	12		42.1%	57.9%	100%

⑩ 「科学あそび」の導入について

教育事業については、「科学あそび」[学研・講師派遣型]を年長学年に年間6回（3クラス故、年間18回）開講し、園児の科学遊びを通じての「考える力」「自分で試してやってみる力」を育む保育に取り組んだ。その教育効果と子ども達の興味、関心の度合いは、予想通り年長児たちの眼の輝きがあり、科学に対する興味関心を培うこととなった。新年度からの実践の方向性がみいだせた。取り組み導入の趣旨は、子ども達に、より魅力的な幼児教育を実践し、遊びを通して知的刺激を与え環境を調べていくことを目標とする。そして、身の回りの不思議だと感じる感性と、なぜと思う知的な好奇心で、子ども達が夢中になって遊ぶことをより育むこと、子ども達が初めて「おもしろい」と思ったことを「好きなこと」にしていくこと。さらに「不思議、なぜ？」を楽しくあそびながら、自由にその子らしく感じていく、これが科学への取り組みの最初の一歩と確信し、より幼児の成長に期すことを目標として取り組んでいくこととし、2014年度も継続導入とした。

⑪ 不用教材、粗大塵等の処分

年間で不要となった大型教材や教具、その他産業廃棄物となる粗大ごみについて2回の業者回収を行った。

⑫ 中学生の「職場体験学習」受け入れ

例年の通り、中学生の職場体験学習として、2013年10月に2日間、枚方市立楠葉中学2年生4名。2014年1月に2日間、楠葉西中学2年生を受け入れた。園児の登園前の準備から降園にいたるまで、園児との活動を共にし、幼稚園教諭の職業内容を中学生なりに理解したようである。

⑬ 重要文化財防災訓練「交野天神社防災訓練」参加

2014年1月24日、枚方市楠葉丘の重要文化財・交野天神社にて実施された「防災訓練」に年長児3クラス66名が参加。文化財の大切さと、防火意識が高まった。

⑭ 次年度 2014年度・平成26年度学籍について

2013年10月1日、入園願書受付にて98名の入園志望があった。これにより、新年度学籍は 年少学年95名、年中学年78名、年長学年45名、合計218名の学籍となる。

第19節. 沿革 -1

和51年 1976年	5月2日 理事長・山口亨「建学の精神」を考察
昭和52年 1977年	2月22日 学校法人山口学園 法人認可を大阪府知事より受ける 4月10日 第1回入園式挙行 園地（開園当時） 合計 4249.0m ² （1287.5坪） 園舎面積 402.9m ² 延床面積 855.7m ² 鉄筋コンクリート造り〔保育室5室、遊戯室1室、職員室、園長室の構成にて開園〕 学籍園児数 79名（4歳児48名、5歳児31名）幼稚園教育事業開業
昭和53年 1978年	開園二年を経過し、園児数増加を見込み、園舎増築を検討、計画。学籍園児数184名。
昭和54年 1979年	園舎増築工事完成 園舎面積 466.6m ² 延床面積 874.8m ² 鉄筋コンクリート造保育室・新職員室増築。学籍園児数274名。
昭和55年 1980年	園児数増加により、第二次園舎増築を検討、計画に入る。 学籍園児数335名。
昭和56年 1981年	園舎増築工事完成 園舎面積 83.1m ² 延床面積 139.2m ² 鉄筋コンクリート造 保育室2室を増築。学籍園児数376名。
昭和57年 1982年	園児数増加により、遊戯室新築を検討、計画に入る。 学籍園児数464名。
昭和58年 1983年	遊戯室増築工事完成（新游戯室） 園舎面積 317.4m ² 延床面積 317.4m ² 鉄骨造 遊戯室増築。在籍数528名。
昭和59年 1984年	コンピュータ導入し学籍管理他の処理を開始。学籍園児数507名
昭和61年 1986年	開園10周年記念事業として「幼児教育セミナー」開催〔講師：井上敏明（教育評論家・六甲カウンセリング研究所所長）講演〕記念誌 タブロイド版20頁作成、園児、卒園児に記念下敷配付。学籍園児数444名。前年度対比63名の園児数減
昭和62年 1987年	園児定員500名を大阪府に申請（定員増申請）400名の認可を受ける。 学籍園児数409名
昭和63年 1988年	学費口座引落処理をコンピュータ処理開始〔銀行口座振替システム運用〕 学籍園児数330名。前年度対比79名の園児数減少。
昭和64年平成元年 1989年	学費(保育料)年間、156000円に改定。 学籍園児数337名
平成 2年 1990年	文部省幼稚園教育要領の改訂により園則変更する。就業規則等改定、労働環境の整備を図る。学籍園児数364名。（前年度対比27名の園児数増）
平成 3年 1991年	幼稚園パンフレットタブロイド版8頁作成。開園15周年記念として父母会より「太陽電池時計」寄贈。学籍園児数307名。（前年度対比57名の園児減少）
平成 4年 1992年	学校週5日制を導入 園則変更する（平成4年9月より実施）文部省幼稚園教育要領の趣旨に則り少人数学級編制を採用、園則変更。（1組40名定員を35名定員変更、3歳児は25名定員）学籍園児数291名。
平成 5年 1993年	米飯給食を導入。 学費(保育料)年間、168000円に改定。学籍園児数233名。（前年度対比58名の園児減少）
平成 6年 1993年	米飯給食を導入し、給食の充実を図る。 学籍園児数231名。
平成 7年 1995年	園地の拡大、合計 5386.1m ² （1632.1坪） 理事長・山口亨 大阪府知事より教育功労者表彰 受彰 青葉スポーツクラブ創設（スポーツクラブ開設）第2回 枚方チャイルドサッカー大会出場優勝幼児体育指導を教育課程に編纂。学校週5日制を導入の拡大、園則変更する（平成7年4月実施） 学籍園児数202名。

第19節. 沿革 -2

平成 8年 1996年	開園20周年を迎え、諸行事等の見直しを行う。学費（保育料）年間、204000円に改定。学籍園児数 2 2 2 名（前年度対比 2 0 名の園児数増）
平成 9年 1997年	預かり保育の実施、子育て支援の充実を図る。学費(保育料)年間、228000円に改定。学籍園児数 2 2 1 名。
平成10年 1998年	夏期保育の長期化並びに夏期保育中の預かり保育拡大。学籍園児数 2 3 3 名。
平成11年 1999年	少子化対策臨時交付金（補助金）にて園舎・保育室改修工事を実施。学費管理システムPCソフト導入。学費(保育料)年間225000円に改定。学籍園児数 2 2 3 名。
平成12年 2000年	ホームページ開設 情報公開並びに幼稚園教育内容広報発信を開始。山口亨園長退任、山口尚志園長就任。学籍園児数 2 2 9 名。
平成13年 2001年	入園願書、Emailにて入園受付開始。学籍園児数 2 1 2 名。
平成14年 2002年	食育をテーマに講演会開催 講師:大和学園理事長 田中幸雄氏。学籍園児数 2 1 4 名。
平成15年 2003年	園舎改修[体育倉庫、備品倉庫、年少保育室空調設備設置]学籍園児数 2 1 3 名。
平成16年 2004年	異年齢児複合教育活動の本格化（縦割り保育）父母会運営組織の変革。全保育室並びに遊戯室に空調設備を完備。学籍園児数 2 1 0 名。
平成17年 2005年	課外教室として幼児英語教室（ECC）、幼児プレイルーム（学研）、未就園児教室を開講。異年齢児複合教育活動（縦割り保育）の継続。教育講演会開催 講師:大和学園理事長 田中幸雄氏。学籍園児 1 9 1 名。
平成18年 2006年	開園30周年を迎える。園庭開放を実施し、未就園児子育て支援事業に取り組む 異年齢児複合教育活動（縦割り保育）の継続。課外教室エンピツらんど開講。理事山口尚志、法人の代表権を有する副理事長就任。 学籍園児数 1 6 0 名（前年度対比 3 1 名の園児数減少）
平成19年 2007年	園庭開放を継続実施し未就園児子育て支援事業を拡大。異年齢児複合教育活動（縦割り保育）の継続。課外教室「こどもアートクラブ」開講。園内改修 [預かり保育室・年中園舎手洗い場・園庭西花壇・園地周りフェンスの改修] 学籍園児数 1 5 4 名。
平成20年 2008年	園庭開放日を月2回とし未就園児子育て支援事業を拡大。未就園児教室キディクラブ開講。夏休み預かり保育開始。給食内容について改良改善、従来にましてアレルギー食への対応を実施。学籍園児数 1 3 9 名（前年度対比 1 5 名の園児数減少）
平成21年 2009年	学校評価・自己評価をホームページに公開、併せて財務状況について公開。異年齢児による教育活動のより充実に努め、その活動期間の長期化を図る。園庭開放を継続実施。夏休み預かり保育の拡大実施並びに冬休み預かり保育の実施。年度末（2010年3月）に平成22年度向け、保育室6室改修工事（室内手洗場、保育室ドア改修他）並びに園内花壇の安全改修工事を実施。その他の改修工事（屋上防水塗装、園庭境界部分塗装の各修繕工事）を実施完了。学籍園児数 1 5 1 名
平成22年 2010年	学校評価・自己評価、財務状況について公開。園庭開放事業を継続。平成21年度に引き続き、保育室改修工事を施工し、園児教育環境整備を整える。学籍園児数 1 7 5 名
平成23年 2011年	学校評価・自己評価、財務状況について公開。園庭開放事業を継続。学籍園児数 1 9 1 名
平成24年 2012年	書学校評価・自己評価、財務状況について公開。園庭開放事業を継続。学籍園児数 1 8 0 名。 [中規模改修工事を実施]
平成25年 2013年	本書の通り。学籍園児数 1 9 2 名。 [小規模改修工事を実施] 年度末を以て学校法人山口学園理事長山口亨辞任。後任に園長・山口尚志を選任

学籍の推移 [資料]

年 度	3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児	合 計	入園児数	年度末卒園児数	納付金年額
昭和52年	—	48/2組	31/1組	79/03組	79名	31名	120000
昭和53年	—	122/3組	62/2組	184/05組	141名	62名	120000
昭和54年	—	157/4組	122/3組	279/07組	167名	122名	132000
昭和55年	23/1組	162/4組	150/4組	335/09組	197名	150名	132000
昭和56年	35/1組	190/5組	151/4組	376/10組	202名	151名	132000
昭和57年	44/1組	231/6組	189/5組	464/12組	248名	189名	132000
昭和58年	40/1組	276/7組	212/6組	528/14組	277名	212名	132000
昭和59年	26/1組	244/7組	237/6組	507/14組	211名	237名	132000
昭和60年	54/2組	206/6組	216/6組	476/14組	179名	216名	144000
昭和61年	42/2組	211/6組	191/5組	444/13組	209名	191名	144000
昭和62年	42/1組	179/5組	188/5組	409/11組	186名	188名	144000
昭和63年	38/2組	132/4組	160/4組	330/10組	140名	160名	144000
平成01年	50/2組	165/5組	123/4組	337/11組	184名	123名	156000
平成02年	58/2組	147/4組	159/5組	364/11組	160名	159名	156000
平成03年	44/2組	215/4組	139/4組	308/10組	123名	139名	156000
平成04年	75/3組	90/3組	126/4組	291/10組	129名	126名	156000
平成05年	34/2組	112/4組	87/3組	233/09組	80名	87名	168000
平成06年	42/2組	84/3組	105/3組	231/08組	94名	105名	168000
平成07年	60/3組	60/3組	82/3組	202/08組	87名	82名	180000
平成08年	71/3組	92/3組	59/2組	222/08組	108名	59名	204000
平成09年	42/2組	93/3組	86/3組	221/08組	76名	86名	228000
平成10年	88/4組	55/2組	90/3組	233/09組	107名	90名	228000
平成11年	65/3組	99/3組	59/2組	223/08組	90名	59名	252000
平成12年	57/3組	80/3組	92/3組	229/09組	77名	92名	252000
平成13年	66/3組	72/3組	74/3組	212/09組	84名	74名	252000
平成14年	59/3組	75/3組	80/3組	214/09組	79名	80名	252000
平成15年	66/3組	74/3組	73/3組	213/09組	82名	73名	252000
平成16年	53/3組	84/3組	73/3組	210/09組	71名	73名	252000
平成17年	52/3組	57/2組	82/3組	191/08組	60名	82名	252000
平成18年	47/3組	56/2組	57/2組	160/07組	53名	57名	252000
平成19年	53/3組	47/2組	55/2組	154/07組	57名	55名	252000
平成20年	42/3組	51/2組	46/2組	139/07組	46名	46名	252000
平成21年	51/3組	47/2組	52/2組	151/08組	57名	51名	252000
平成22年	66/4組	57/2組	51/2組	174/08組	75名	51名	252000
平成23年	67/4組	67/3組	57/2組	191/09組	71名	57名	252000
平成24年	46/3組	68/3組	66/3組	180/09組	52名	66名	252000
平成24年	79/5組	47/2組	66/3組	192/10組	84名	66名	252000

以上、文責／園長 山口尚志 本書は18ページを以て成す

2013年度・平成25年度 学校法人山口学園くずは青葉幼稚園の
教育事業について、以上の通り報告する。

2014年・平成26年 4月1日

学校法人山口学園
くずは青葉幼稚園

園長・理事長 山口尚志



[2014年4月1日を以て理事長就任]

2014年・平成26年 3月31日

学校法人山口学園

理事長 山口 亨



[2014年3月31日を以て理事長退任]

Yamaguchi Gakuen Educational Foundation

2013年度・平成25年度 事業報告書

学校法人山口学園

くずは青葉幼稚園

<http://www.k-aoba.ed.jp/>

〒573-1102 枚方市北楠葉町38番1号

電話 072-857-8221 FAX 072-856-5944

Mail address info@k-aoba.ed.jp

2014年4月1日発行